

自己点検・評価報告書

—平成20年度における本校の主な活動—

平成21年3月

弓削商船高等専門学校

は じ め に

明治34年の開学以来、本校は使命である外航船員・工学技術者の養成教育に努め、全国各地に優秀な船員・エンジニアを輩出し続けてきた。

また、独立行政法人化された平成16年4月以降、高等専門学校はこれまで以上に、研究、地域連携、社会貢献などが求められるようになった。さらに、高学歴、少子高齢化社会を迎え、厳しい競争の時代に入ろうとしている。

平成20年度は、さまざまな活動を展開してきた。その中で、主なものを平成20年度における取組として、本報告書にまとめた。具体的には、瀬戸内3商船高等専門学校の高度化再編、国立高等専門学校機構の監事監査、STCW条約に基づく資質基準制度に係る外部監査、学生の課外活動、事務組織の改編、校内の全面禁煙、施設・設備の主な工事である。これらの活動を平成21年度のさらなる活動に結び付けていきたい。

また、外部の評価に対しては、第4回運営諮問会議で、「地域共同研究推進センターにおける活動成果の教育への還元」「専攻科におけるインターンシップ及び弓削丸の活用」を諮問し、委員の方々からは貴重なご提言をいただいた。

今年度は、第5回運営諮問会議を開催し、諮問事項、提言内容、提言に対する対応状況について「運営諮問会議報告書」を発行し、学内はもちろん、外部の関係機関に対しても評価結果を広く公表する。

本報告書は、第4回運営諮問会議の提言とその対応状況を中心に整理し、また、今年度における本校の活動について記載した。

平成21年3月

弓削商船高等専門学校長
落 合 敏 邦

目 次

1. 第5回運営諮問会議の報告	
1-1. 第4回運営諮問会議の提言	1
1-2. 提言に対する本校の対応	1
1-3. 第5回運営諮問会議諮問事項	4
1-4. 審議内容	7
1-5. 提言	9
2. 3商船高専高度化再編	11
3. 監事監査	12
4. STCW条約	14
5. 学生の動向	15
6. 事務組織の改編（技術室）	18
7. 校内全面禁煙	19
8. 施設・設備	20
資料編	21

1. 第5回運営諮問会議の報告

本項では第4回運営諮問会議で受けた提言とその取り組み状況、第5回運営諮問会議諮問事項、審議内容と提言について説明する。

1-1. 第4回運営諮問会議の提言

平成20年1月29日開催の会議において、2項目の諮問事項に対して、下記のとおり提言を行った。

(1) 地域共同研究推進センターにおける活動成果の教育への還元

○技術振興会の活動に学生、特に専攻科生が参加できる機会を作る

(2) 専攻科におけるインターン

シップ及び弓削丸の活用

- インターンシップの目的を明確にするため、インターンシップ基準書を作成する
- 商船系専攻科生に社船等の乗船体験を行うことを勧める



第4回運営諮問会議

1-2. 提言に対する本校の対応

第4回会議の提言に対する学校の対応として、以下のことを確認した。これらのことは今後も継続して努力されることを希望する。

(1) 地域共同研究推進センターにおける活動成果の教育への還元

① パネルフォーラム

専攻科生の研究の充実、教員の研究水準の向上、及び専攻科生と教員の研究内容を弓削島を取り巻く地域の住民や企業等へ紹介する目的で、11月8日(土)と9日(日)の2日間、本校の第1会議室において「第4回パネルフォーラム」を開催した。今年度も過去3回と同様に専攻科生の研究内容の発表に重点を置き、専攻科生全員にパネルの展示を求めた。展示パネル総数は商船学科6テーマ、電子機械工学科20テーマ、情報工学科9テーマ、総合教育科3テーマの合計38テーマであった。

② 技術振興会主催の技術講習会

平成19年度に実施した「有限要素法セミナー」に加えて、平成20年度は基礎力学の講習も実施した。講習会にはティーチングアシスタント(以下TAと称する)として延べ14名の専攻科生と4名の本科生が

参加し、本技術講習会が学生の勉学及び研究に対する姿勢に対して少なからず影響を与えたようである。

- ・講習会名：弾塑性力学の活用に向けて～材料の弾塑性変形，弾塑性力学の基礎～

TAとして専攻科2年生1名、1年生3名が参加した。

- ・講習会名：有限要素法基礎セミナー

TAとして専攻科2年生3名、1年生2名、本科5年生2名が参加した。

- ・講習会名：有限要素法応用セミナー

TAとして専攻科2年生3名、1年生2名、本科5年生2名が参加した。

③技術振興会主催の講演会

今年度は、本校教員の船舶・海洋に関する研究紹介、外部講師によるロボットに関する内容の講演を開催した。

ア 本校教員の講演

- ・演題：「プロペラ，FRP船体及び漁網への特殊塗装実験の成果ならびに海中付着生物フジツボについて」
- ・演題：「中速ギヤードディーゼル機関の燃焼解析技術の開発」
海上輸送システム専攻科生を中心に8名が参加した。海洋に関する講演に海上輸送システム専攻科生は興味を示していた。

イ 外部講師の講演

- ・演題：「人間に優しいロボットの今日と明日」
講師：愛媛大学大学院理工学研究科 生産環境工学専攻 機械工学コース 助教 山本智規
- ・演題：「人に優しいロボットの今日と明日」
講師：愛媛大学大学院理工学研究科 生産環境工学専攻 機械工学コース 准教授 柴田論

④四国6高専産学官交流会

本年度は本校が主幹校となり、平成20年8月4日（月）に今治地域地場産業振興センターで実施され、パネル展示で海上輸送システム工学専攻生が発表した。専門外の参加者にも理解できるような分かり易いパネルの制作や説明の難しさを経験したようである。

(2) 専攻科におけるインターンシップ及び弓削丸の活用

① 専攻科におけるインターンシップ

本校に専攻科が設置され4年目を迎え、既に2期生が修了した。専攻科教育の特徴は、より実践的で高度な実務を遂行できる技術者を育成することであり、「長期インターンシップ」による実務に即した教育は、本諮問会議の提言にあるように、大変意義のあることであると考えている。平成21年度には、カリキュラムの改訂を検討する予定で、「長期インターンシップ」を正規の科目に組み入れたいと考えている。具体的には、15日間の「長期インターンシップ」で2単位分の単位認定が可能である。そこで、「長期インターンシップ」を実施するにあたり、本校の技術振興会の会員企業に対して「インターンシップ受け入れ」に関するアンケート調査を実施した。「長期インターンシップ」の受け入れについて可能性のある企業数は、「今後検討する」と回答した企業を含めると18社あり、インターンシップを実施することは可能であると考えられる。今後は、インターンシップの実施に向けて、単位の認定方法、宿舍や通勤方法、経費などについて詳細に検討する予定である。

② 専攻科における弓削丸の活用

現在、専攻科では、単位化はしていないが、プレゼンテーション能力やリーダーシップ力の向上をはかるため、専攻科生を本科生の実験実習のTAとして配置し、本科生の教育支援に参加させている。昨年度の運営諮問会議で、「商船系専攻科生においても、社船等の乗船体験を行うことを勧める。」と提言を受けていたのであるが、現状はまだ対応できていない状況である。海上輸送システム工学専攻においては、既に本科生の航海実習のインストラクターのTAや弓削丸を利用した各種イベント（一日船長やボランティア体験航海など）にスタッフとして積極的に参加している。専攻科における弓削丸の活用をより活発化するためには、TAを単位認定するよう（例えばインターンシップと同等の扱いをするなど）検討する予定である。

(3) 上記対応の意見

「地域共同研究推進センターにおける活動成果の教育への還元」については、技術講習等、それぞれ成果が上がっているという感じを受けた。成果については、成果集にして関係者へ配付することが大事である。講習会については、もう少し一般向けのテーマを選んだらどうか。また、どういう人をターゲットにして、こういう企画をしたのか。小中学校の

生徒などに夢を持たせるのか、専門家なのかで大きな違いが出る。小学生あたりは非常に喜んでいるようである。それなら、そのような企画が必要ではないかと感じた。今後はこれらの点に注意して一層努力を願いたい。

「専攻科におけるインターンシップ及び弓削丸の活用」については、インターンシップは現場での即戦力の最も近い道ではないかと思う。また、学校も、今まで2年かかって教えていたものを1年で教えるためには、インターンシップを上手く取り入れるなどして、どういう風に教えたらよいかを考えていただき、さらに努力を願いたい。

1-3. 第5回運営諮問会議諮問事項

平成21年3月5日（木）開催の第5回運営諮問会議において、諮問された事項は以下のとおりである。

(1) 入試業務に関すること

① 学生募集について

○ 現状

志願者の確保は、本校の最重要課題として、オープンカレッジ（夏季休暇中の2日間）、中学校への個別訪問（280校）、学校説明会の開催（10月）、中学校主催学校説明会への参加（23校）、弓削丸によるPR（体験航海）など、全教職員が様々な活動を展開して鋭意努力している。本年度の学生募集活動の特徴は、特に工業系学科の志願者数増加を視野に入れて、近隣からは工業系学科、遠方からは商船学科の志願者数増加に向けてPR地域を住み分けし、各学科が責任をもってPR活動に臨んだことにある。

○ 今後の課題

平成21年度の入試状況は、様々な要因で期待した成果が現れなかった。PR地域を住み分けしたこと、及び教員が学校訪問した際、自分の所属学科以外の学科についての説明が十分でなかったことが一要因と思われる。

○ 諮問事項

反省点を踏まえ、平成20年度から実施したPR地域の住み分け方策の是非、及び全教員が3学科のPRを的確に行うための具体的な対策について、ご教示願いたい。

② 試験問題の作成ミスの防止について

○現状

高専の学力入試は高専機構で作成された統一問題(英・国・数)で実施されている。事前に配布される試験問題の管理が大切な課題である。一方、編入学試験や学力入試の予備問題は、各校で独自に作成することになっている。本校は、関係科目担当教員から選定した試験問題作成員が責任をもって作成し、完成した試験問題は入試委員会(学生課)が厳重に保管している。

○今後の課題

試験問題の作成は、内容の守秘と教員数の観点から、試験科目に対して数名のみが関わっている。そのために問題内容の確認は第三者のチェックに頼ることができず、本校の現状にあった適当な問題作成ミス防止の対策が必要になっている。

○諮問事項

試験問題の作成ミスを防止するために、チェックリスト等を整えたのでご意見を戴きたい。また、他に有効な作成ミス防止策があればご教示願いたい。

③重要書類の安全な保管方法について

○現状

入試問題や調査書等の重要書類は、学内保管室内の金庫に保管している。金庫のキーと解除番号は職員2人でそれぞれが管理し、試験当日まで盗難等に備えている。

○今後の課題

本年度の高専機構監事監査において、さらに確実な入試問題の保管方法を取り入れるように指摘された。

○諮問事項

機械システムによる警備装置を設置した。関係機関の重要書類の保管状況と比較して、改善点があればご教示願いたい。

(2) 学内施設の効率的な運営方法

①保健室

○現状

本校は、保健室に看護師(1名)を配置し、学生の健康面でのケアを行うとともに、補助相談員としてメンタル面でも相談に対応している。相談を受けた看護師は、受けた相談内容については、毎週カウンセラー(非常勤)に報告し、助言を受け学生に対応している。

保健室にメンタル面で相談に来る学生には、学級担任教員や学生相談室で相談できない学生又は学生相談室に行けない学生がおり、保健室（看護師）は重要な役割を負っている。

○今後の課題

上記のように、学生にとってメンタル面において相談しやすい体制を取ることが必要である。看護師とカウンセラーとの間の報告・助言の体制は、比較的スムーズに行われているが、看護師と学級担任との連携は、相談学生の諸事情により困難な場面も多く認められる。

○諮問事項

より良い相談体制をとるための学級担任と看護師との連携方策についてご教示願いたい。

②図書館

○現状

図書館は図書館長（教員）、事務職員3名（内パート1名）が配置されており、事務職員は図書館業務に加えて、広報及び情報の業務も兼務している。

また、図書館には、図書の選定、予算その他図書館の運営に関することを審議するため図書委員会を設置し、年3回程度開催している。

加えて、各クラスに図書委員（学生）を配置し、図書館だよりの配布、返却図書の督促等、図書館と学生間の連絡調整を行っている。

以上のように、図書館教職員、図書委員会、学生の図書委員とも、一般的な図書館業務を行う体制は整えているが、一般学生を対象として、図書に興味を抱かせるような体制が、充分図られている状況ではない。

なお、経費削減等の理由から、図書館は昨年度まで平日8時30分から19時まで、土・日の8時30分から16時30分まで開館していたが、本年度からは平日8時30分から18時までと土・日10時から16時までの開館とし、全体として開館時間を短縮した。

上記のような状況下で、図書館の利用者が年々減少する状況にある。

○今後の課題

現行の図書館組織のもとで、より効果的な図書館の利用促進を図る必要があると思われる。

○諮問事項

今後、教職員及び学生の連携を密にし、図書館利用の促進を図りた

いが、どのような施策が考えられるかご教示願いたい。

1-4. 審議内容

〔第5回運営諮問会議諮問事項について〕

(1) 入試業務に関すること

① 学生募集について

- ・高校回りとか、各地区を回っているのを、2, 3人で最低回り、商船学科の先生と、もう一人は非商船の先生とが、ペアになる。できれば、先生方と一緒に学生も行く。
- ・ここの学校を出ると、どんな資格が取れるとか、どういう貢献を社会にしているか、専攻科を修了すると4年制大学卒業と一緒に資格であるとか、これだけの施設があるということ、大いにアピールしたらよいのではないか。
- ・同窓会、後援会が何ができるのか、学校側で検討して、「こういうことをしてください」と言ってほしい。同窓会、技術振興会、後援会、PTAの組織を生かして、より一層学生募集に励んでいただきたい。
- ・しまなみは工業系を採っていきたいとの話があったが、この今治近辺でいえば、新居浜高専、今治工業があり、工業系をその辺りで選択する場合、地域性とか、いろいろアピール等はあると思うが、実際こういうことが他の工業系とは違うということをしかりとアピールすることが必要だと思う。
- ・私立高校では、パンフレットで強調するところを再三再四言ってくる。小規模の学校にも、1つの高校から3回ぐらい来た。私立や商船高専というのは、特化しているだけに、特色を出していけるところは、十分あるのではないか。
- ・学校PRに行ったところでは、全学科がきちんと説明ができるようにしなければいけないのではないか。また、行く場合、質問予想を作り、準備をしてから、卒業生の就職の状況、優れた環境のところで勉強ができる等、上手くPRして、学生をきちんと集めるということが大事ではないかと思う。
- ・10倍も超すような求人がある立派な学校ですよということをPRする。
- ・ホームページを見たが、具体的に進路先が出ていない学科があった。
- ・入試倍率は、最低2倍のラインは守ってもらいたい。入学定員は、絶

対に確保しないといけない。

- ・理科教室などを通して、地道に地元の子供とその保護者に直接接していく必要もある。(委員より文書にて回答)

- ・法人なので、授業料免除、返還の必要ない奨学金など、経済的な援助・優遇策を独自に策定してもいいのでは。(委員より文書にて回答)

②試験問題の作成ミスの防止について

- ・入試業務というのは、誰もがやりたくない。しかし、事が起こったとき、責任者と幹部は、速やかに集まって、対策を協議して、公平に処理することが必要である。

- ・平成21年度から、新しい学習指導要領の移行期に入ってくるので、その辺りへの対応も考えて入試問題等を作っていかなければいけないのではないかと。

- ・問題作成を、学校内で、この部屋でしなさいということにしているのか、それとも、この期間の間に作成しなさいと、問題をUSBメモリー等に入れて持って帰ることがあるのか。入学ということで、作成する問題については特に留意しないといけない。

- ・問題作成者、教務主任以外のメンバー(少数2人程度)からなる試験問題のチェックシステムを作る。(委員より文書にて回答)

- ・各学科の専門教育担当者が作問してもいいのではないかと。(委員より文書にて回答)

③重要書類の安全な保管方法について

- ・重要書類の保管場所とセキュリティーシステムを見学した。

(2) 学内施設の効率的な運営方法

①保健室

- ・問題を抱える学生に対応するのは最も適した人材が当たるのが良いが、学級担任は学生一人ひとりの状況を把握しておく必要があると思う。家庭との連絡などは学級担任の仕事だと思われるが、現在は誰が行っているのか。急を要する事態になったときなどの対応策も必要で、個人情報の保護との兼ね合いで柔軟に対応すべきだと思われる。

- ・いろいろな症状、疾患を持っている人もいるので、表に出しにくい部分もある。しかし、周囲が注意する意味において、情報共有することが大事である。

- ・はしかについて、保護者の方に、2回の予防接種をお願いし、成績表などと一緒にお知らせしているとのことであるが、はしかが発症すると、

全体の学事予定が狂ってしまうので、保護者の方に連絡を取って勧めてもらいたい。

② 図書館

・ 学生が図書館へ行って、何か調べないといけないような状況にしないと、今の学生は、小学校のときからあまり本を読むという習慣がついていないので、読んでくれない。

・ 実験実習のレポート等で課題を出して、参考図書を挙げて、その本を読ませるといような工夫をしたらよいのではないか。

・ 平均して2，3冊年間に学生に貸し出すのは、ちょっと少ない。

・ 1920，30年代の本等があったので、予算等もあるだろうが、新しい本に持っていかないと、現代と全然マッチしないのではないか。そういう意味で、アンケートを学生に取り、どういう傾向の本がいいか、専門誌がいいか、あるいは一般の小説がいいか聞くのも一つの方法ではないか。



(図書館視察)

1-5. 提言

第4回会議の提言に対しては、これからも教育研究活動の改善に努力し、さらに発展されることを期待している。

なお、今回の諮問事項に対しては以下のとおり提言する。

(1) 入試業務に関すること

学校PRは、同窓会、技術振興会、後援会、PTAの組織を活かして、学生募集に励んでいただきたい。

学校PRに行く際は、ある程度質問予想のようなものを作り、準備をし、全学科の説明がきちんとできるようにすることを提案します。

卒業生の就職状況や、こういう優れた環境のところで勉強ができること等を上手くPRすることを提案します。

パンフレットでここを強調するということは何度も言ってきたり、1つの高校から3回ぐらい来たりと、PR活動を行っている学校もあるので、商船高専は、特化しているだけに、より一層アピールすることを提案します。

また、入試業務で事が起こったとき、責任者と学校の幹部は、速やかに集まって、対策を協議して、公平に処理することを提案します。

(2) 学内施設の効率的な運営方法

① 保健室

問題を抱える学生に対応するのは最も適した人材が当たるのが良いが、学級担任は学生一人ひとりの状況を把握しておく必要があると思います。家庭との連絡などは学級担任の仕事だと思われそうですが、現在は誰が行っているのか。急を要する事態になったときなどの対応策も必要で、個人情報保護との兼ね合いで柔軟に対応できるようにしていただくことを提案します。

② 図書館

講義や実験実習を実施するに当たり、学生が図書館へ行って、何か調べないといけないような状況にすることを提案します。

また、予算等もあるでしょうが、新しい本も入れないと、現代とマッチしないのではないのでしょうか。そういった意味で、アンケートを学生に取り、どういった種類の本がいいか調べることを提案します。

2. 3 商船高専高度化再編

本校が進めている高度化再編について、平成20年度の3商船高専将来計画検討委員会での検討結果を中心に、これまでの経緯も含めて報告する。

平成18年9月22日、高専機構理事長から瀬戸内3商船高専に対して面接と文書により再編統合（後に高度化再編と改める）検討の要請がなされた。再編統合の主な理由は、「国立高専の整備について」（平成18年9月発刊）にも明記しているように、高専の高度化と質の確保である。また、既に検討中の5商船高専練習船の共同運航についても推進するようにあわせて要請された。これを受けて、瀬戸内3商船高専は、平成19年4月17日に第1回3商船高専将来計画検討委員会（以下、検討委員会と略す）を開催した。本検討委員会には、高度化再編に向けて現場の意見を十分に反映させるために、「海事技術者教育の在り方」「工業系学科の在り方」「練習船共同運航（瀬戸内3商船高専で推進）」を検討する専門部会が設置されている。

平成19年度は、検討委員会を一層充実させるための細部申し合わせに関する事、3校連携の枠組み、各校の構想方針、再編整備における教育理念・目標などについて、情報交換を中心に11回開催された。

平成20年度は、年度当初において検討委員会が高度化再編を着実に進めていく位置づけであること、今年中に高度化再編に関する全体構想をまとめること（工程表の作成）を確認した。これを踏まえて、新高専の教育理念・教育目標、学科構成や教育内容の大枠などを中心に、15回の検討委員会を開催した。また、練習船共同運航専門部会では共同運航シミュレーションも実施した。この間、学科構成や教育内容に関する大枠については、機構本部や全船協への中間報告または意見交換会を設けることで、検討委員会原案の充実を図った。校内では将来計画検討委員会、教員会議、運営諮問会議による意見交換の実施、および同窓会、後援会への報告を行った。このような経緯を経て、「平成20年度3商船高専将来計画検討委員会検討のまとめ」（平成21年3月17日）を機構本部へ報告した。今後は、外部の有識者の意見を積極的に取り入れるなど地元配慮しつつ、十分時間をかけて3商船高専高度化再編について検討することになった。

3. 監事監査

高専機構が平成16年度より毎年10校程度を対象に実施している監事監査（本年度対象校12校）を受審した。監査項目は、教育研究活動、会計経理の実施状況、随意契約の状況、産学連携・地域連携等の状況、特殊廃棄物の管理・撤去、保有個人情報の管理の状況についてである。監事監査員1名、内部監査員3名により、8月27日から29日の3日間、現地調査が実施された。監査の結果、監事より、冒頭に「学生が勉強しやすい環境にあって、相対的にはいろいろと頑張っている学校という印象を受けた」と総合評価された。以下、項目ごとに評価された結果を報告する。

(1) 教育研究活動について

・ミッションまたは教育カリキュラム

中長期目標における独創的なカリキュラムの有無については、弓削商船高専の独創的な取り組みを注目し評価する。特に、地域共同研究推進センターを事務局とした地域連携は弓削丸を活用して展開しているところが評価できる。学力向上対策は学生の学力に較差があるようだが、習熟度別授業・補習授業・保護者の授業参観などを実施している。大変であるが継続願いたい。J A B E E 認定については、今後とも努力してもらいたい。技術者の国際性を育む工夫については、英語教育の充実を教員だけでなく卒業生からの調査に基づいて充実させようとしているところが評価できる。また、各種試験への対応はT O E I C 対応設備の導入や受験の奨励もしていて、英語堪能な航海士等の育成が期待できる。

・少子化対策（受験者数確保等）

中学校の進路説明会・P R 訪問，学習塾訪問，高校からの編入P R，ポスター掲示依頼など，高専の教員は大学の教員と違って大変であることがわかった。また、地域連携による今治市が学生募集のサポートをしているなど，いい意味での最大エフェクト（効果）がでていて良いと思う。なお、15歳人口が80%となる予想もあり，これからは今まで開拓していなかった女子学生を増やすことに力を入れてもらいたい。本校のホームページはユニーク性が感じられない。若い世代はインターネット，携帯電話でも見れる時代となってきたので，もう少し若者に対して魅力ある内容に工夫してもらいたい。

・学生へのメンタルケア，セクハラ等の対応策

学生の自殺防止のためのガイドライン等は良く作られている。学生相談

室、保健室等で相談を受けているが、相談件数が少ないので心配である。学年別と月別と相談件数を一覧表にして、相談内容ともタイアップさせて集計し、じっくり解析してもらいたい。月別と内容調査等で何とか予防策がとれるのではないか。

- ・ 学校生活と寮生活の振り分け

学寮の運営については、概ね良好と判断するが、女性教員が3名しかいないことで、女子寮の宿直に問題があるように思えた。女性教員を増やしていただければ、こういうところも改善できるのではないか。

- ・ 卒業後のフォロー

同窓会の組織がしっかりしている。学生募集や就職支援のサポート、卒業生による就職体験講演は今後も継続願いたい。

- ・ その他

少子高齢化となり、現在は270万人の研究者と技術者がいるが、男性中心であると2050年には170万人に減少すると予想されている。今までのような男性活用中心では、科学技術創造立国が維持できないという危機感を文科省も感じている。女性教員や女子学生（技術者の卵）を増やすには電子機械工学科とか商船学科など、女性が少ない分野の女子学生を増やすところから始めなければならない。

- ・ 瀬戸内3商船高専の高度化再編

瀬戸内3商船高専の場合は3県にわたる高専の再編であり、これからはドラスティックな変化があると思う。学生に不安を与えないような教育を続けていただきたい。

(2) 会計経理（契約等）の実施状況について

全体的にしっかりしている。金庫番号の定期的な変更や学生顔写真の長期間の活用を見直し願いたい。

(3) 随意契約の状況について

複写機保守の随意契約が続いているので、理由があって一般競争ができない場合は、HPで事前確認公募を行い、公平性を保っていただきたい。

(4) 産学連携・地域連携等の状況について

各取組に関して集計・分析が行われていない。外部資金の導入状況については、年間目標・長期目標を立て、それに対しての検証を行ってもらいたい。企業等との連携状況については、講評がない。公開講座の実施状況については、分析不足である。なお、長期インターシップの実施に向けて努力願いたい。

(5) 入試業務の実施状況について

地方検査場における監督者は2名体制であるが、問題訂正、トイレ対応、監督者自身の体調不良等不測の事態に備え、1名増を検討していただきたい。また、入試情報のデータ作成については、わかりやすいシステムとなっていた。ただし、バックアップをとる必要がある。さらに、試験問題の保管時、機械警備を設置していないことが気になった。編入学試験の出題ミスについて、今後は必ず問題作成者以外の模擬解答を行い、未然防止に努めていただきたい。

(6) 特殊廃棄物の管理・撤去について

吹き付けアスベスト等の管理・撤去は空気環境測定とアスベストの除去を考慮した寮の整備計画を早急に策定願いたい。

(7) 保有個人情報の管理状況について

規程の整備が急務である。

4. STCW条約（資料9-1、9-2）

STCW条約に基づく資質基準制度に係る外部監査が平成20年10月20日に四国運輸局により実施された。この外部監査は船舶職員養成施設に対して、1995年改正の「船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約（STCW条約）第1-8規則」に基づく資質基準制度が適切に運用・維持されていることを確認するために、5年毎に実施される現地調査である。既に作成している本校の資質基準システム運用マニュアルに沿って詳細な現地調査が行われた結果、軽微な不適合事項が一箇所指摘されたが、「良好」であるとの評価を得た。不適合事項は「廃止文書が識別されていなかった」であったが、平成20年10月23日付で「廃止文書管理台帳」を作成することで改善措置を行った。また、調査結果の学内への周知は第7回運営委員会にて報告している。今後は、国際基準に沿った優秀な商船学科卒業生（船員）を輩出するために、本校資質基準システム運用マニュアルを商船学科全教員が再確認し、運用マニュアルの遵守に向けて一層の努力が必要であろう。

5. 学生の動向

平成20年度では、学生の課外活動等を中心にした、以下のような取組があった。

第45回四国地区高等専門学校体育大会

上位入賞種目

陸上（2位） 卓球（3位） サッカー（3位） テニス（1位）
バドミントン男子（3位） ラグビーフットボール（1位）

第45回四国地区高等専門学校体育大会

個人優勝種目

陸上 400m 800m

4×400mリレー

女子800m

柔道 男子90kg級

テニス 男子シングルス

男子ダブルス

バドミントン 女子シングルス



(テニス)



(卓球)



(ラグビーフットボール)



(陸上)



(陸上)

第43回全国高等専門学校体育大会

入賞種目

テニス 男子ダブルス 2位

バドミントン 女子ダブルス 3位



平成20年度瀬戸内三校漕艇大会新人戦が平成20年11月15日に弓削商船高等専門学校栈橋沖で開催された。

成績

Bチーム（新人戦）

1位 広島商船高専

2位 弓削商船高専

3位 大島商船高専



第30回四国地区高等専門学校総合文化祭

優秀賞

写真の部 チュムリアプスオー（こんにちは）

第19回プログラミングコンテスト

課題部門 優秀賞

タイトル

Heartful Alarm



Imagine Cup ソフトウェアデザイン部門日本代表選考会
2位 チーム「White Dolphin」



アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2008四国地区
大会を平成20年10月26日(日) 弓削商船高等専門学校が主管
校で実施した。

弓削てんとう虫君 四国地区大会2回戦敗退 奨励賞

弓削やどかり君 四国地区大会1回戦敗退 奨励賞



6. 事務組織の改編（技術室）

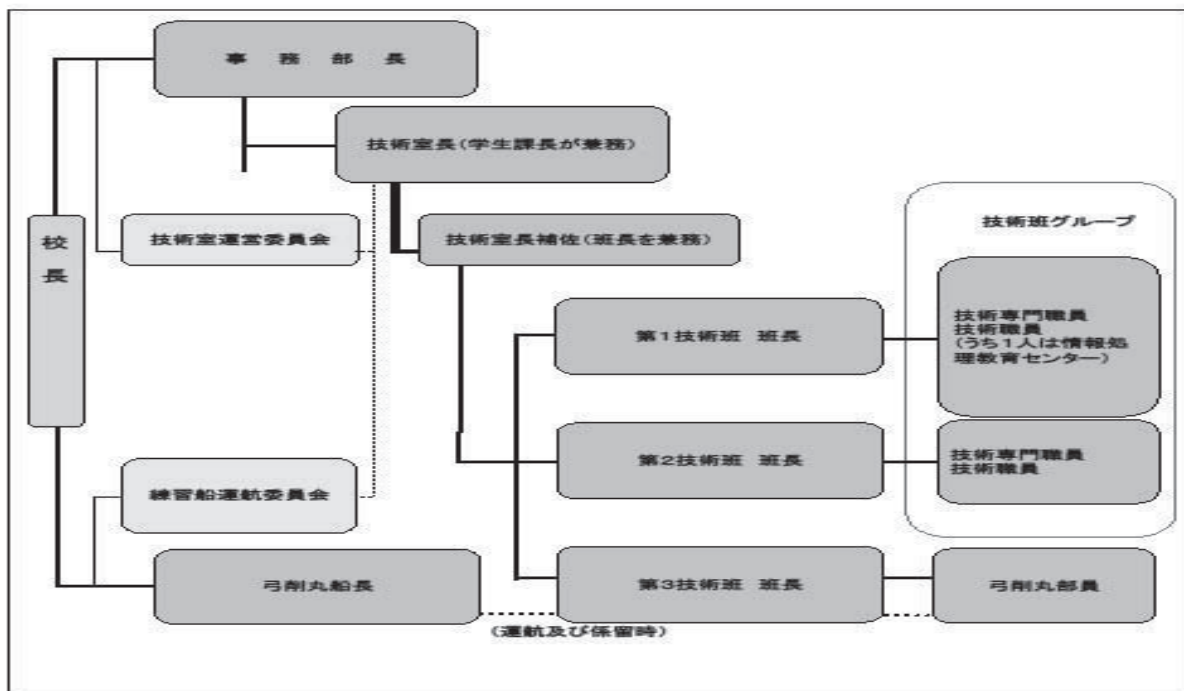
平成20年度より、これまでであった実験実習第一係・第二係、並びに弓削丸（部員）を改編して、技術室として新たにスタートさせることになった。改編の契機は、技術系職員の合理化・効率化を図るために「本部事務局の組織等に関する規則（規則第4号）」が一部改正されたこと、技術系職員の定員削減による教育研究支援に対する質の低下を防ぐことの2点にある。規則の改正では、技術系職員の効果的な組織化の導入により教育研究支援体制の強化を高専機構から要求されている。一方で、全国高専は教職員の定員削減を5ヶ年計画で課せられていて、本校が計画・実施している技術系職員の定員削減とは矛盾することになる。新たに発足させた技術室は、係る矛盾に対して、これまで以上に技術系職員が相互協力をしやすいような組織に改編することで、教育研究支援体制を強化させようとするのがねらいである。

技術室は、技術室長の下に3系統の技術班（実習工場系、船舶管理系、弓削丸系）を並列に配置し、技術室長が各班の業務を統括する仕組みである。メリットは技術系職員同士が組織という垣根を越えることなく繁忙部署への教育研究支援をスムーズに行えることにある。また、教育研究支援のための交流を行うことで、技術職員の知識や技術力の向上につながることも期待できる。次に、技術室運営委員会を設けたことで教育支援の基本計画の作成と管理・運営を技術室が独自に行えるようになったことに特徴がある。高専発足以来、教育に大きく貢献してきた技術系部署は、実習工場と艇庫がそうであったように自らの管理・運営ができず、管理・運営費の大部分は各学科配分予算の一部を拠出してもらうことで、管理・運営が成り立っていた。技術室運営委員会規則（平成20年3月17日制定）では、技術室運営委員会が実験実習支援の基本計画の作成と技術室の管理・運営が行えるように明文化されている。これにより、教育研究支援に関する技術室員の意見が基本計画作成に反映しやすくなり、運営経費等を含めた長期的な計画も策定しやすくなった。

以上の理念で発足した技術室であるが、大胆な技術系職員の組織改編であり検討すべき問題も残っている。特に、勤務体系が異なる第3技術班（弓削丸技術室員）は2人（技術室長と船長）の業務統括者がいること、弓削丸運航日と実験実習支援日の調整が複雑なことが初年度を通して見えてきている。技術室運営委員会では、技術室が学生への教育研究支援効果を十分に発揮できるように、技術室のあり方について再検討し

ている。

技術職員(施設系を除く)の組織化について



7. 校内全面禁煙

平成15年5月に「健康増進法」が施行され、受動喫煙などの防止に努めることが学校や企業に求められることとなった。

本校は、15歳からの若い学生が生活する場であり、受動喫煙による健康に及ぼす悪影響を鑑み、また、キャンパス環境保全のために、本校に在籍する教職員及び学生のみならず、本校を訪れる方、すべてを対象に平成20年4月1日(火)より全キャンパス敷地内(学寮地区、実習船係留地区、実習船弓削丸を含む)の全面禁煙を実施した。

本取り組みは、9月30日、愛媛県の「健康づくり応援施設認定制度」により、「えひめ 愛の禁煙・分煙施設」の認定を受け、本校が健康づくりを推進している施設として県ホームページ等で広く紹介されることとなった。



8. 施設・設備（資料10）

平成20年度の施設・設備に関する主な工事は、以下のとおりである。

弓削商船高専下弓削団地機関整備設計

平成21年度工事予定の設計業務を行った。

弓削商船高専電子機械工学科棟等幹線改修

電子機械工学科棟と情報工学科棟の旧電気室から新電気室へ配線変更を行った。

弓削商船高専情報処理センター防水工事

屋上防水シートの取替えを行った。

資 料 編

1. パネルフォーラム目次	21
2. 「四国6高専産学官交流 in しまなみ」に参加して	23
3. 平成19年度TA実施報告書	24
4. 入学試験問題の作成ミス防止対策	25
5. 保健室、健康相談窓口利用状況	29
6. 図書館利用状況（平成19年度年間、平成20年4月～平成21年 1月末）	35
7. 図書館利用状況（平成19年度月毎）	36
8. 図書館利用状況（平成20年度月毎）	37
9-1. STCW条約審査結果	38
9-2. STCW条約項目ごとの評価例	39
10. 平成20年度施設・設備工事	40

展示テーマ名と研究者名

(研究者は、あいうえお順となっています。)

※()は学生で 海;海上輸送システム工学専攻、生;生産システム工学専攻、
商;商船学科、電;電子機械工学科の略、数字は学年

【商船学科】

1. 無摩耗研磨板の開発 ; 友田 進(海1 中橋勇貴)……………1
2. マグネシウム合金板の温間成形性 ; 中 哲夫(海1 植川陽介、生2 片平卓志、
商5 居垣勝彦、電5 大出明慶、ジェニーヤップ)……………2
3. 高張力鋼板の形状凍結性に及ぼす加工条件の影響 ; 中 哲夫(海1 原田康平、
商5 今崎友彰、電5 則信真吾)……………3
4. 夏期における燧灘東部の海洋構造について ; 二村 彰……………4
5. ハイブリッド型海上海中監視ブイの研究開発 ; 松下 邦幸 他……………5
6. 吸油性ゲルを用いた油水分離ゲルシートの開発 ; 村上 知弘……………6

【電子機械工学科】

7. 快削鋼の仕上げ面形成に関する研究 ; 大石健司(生1 山本祐)……………7
8. 焼結金属の被削性—樹脂含浸材向け工具の考案へー ;
大石 健司(生2 山内優暢)……………8
9. ロボットの回避運動における人間の心理評価
～ロボットと人間が交差する場合～ ; 勘久保 広一……………9
10. 蒸気タービンに関する研究 ; タワア ガンバット(電5 岡野真也、水野宗平)……………10
11. レイノルズ乱層流実験 ; タワア ガンバット(電5 ファジルル シヤ、坂口暢也)……………11
12. 台車型倒立振子の移動制御 ; 園部 元康(生1 原眞志)……………12
13. 振子の制振制御; 園部 元康(生1 東正樹)……………13
14. 圧力を受ける中空丸棒の応力集中 ; 鶴 秀登(生1 小丸維斗)……………14
15. 貫通孔およびピットを有する有限体の曲げ ; 鶴 秀登(生2 秦昂平)……………15
16. PCによる設計製図と強度評価に関する研究;
鶴 秀登(生2 濱中敬司、秦昂平、生1 小丸維斗)……………16
17. 両側半だ円切欠きをもつ板の引張り ; 鶴 秀登(生2 濱中敬司)……………17
18. 多孔体の弾塑性変形有限要素法解析 ; 中山 恭秀……………18
19. マルチスケールボイドを有する材料の弾塑性有限要素法解析 ;
中山 恭秀(生1 濱田展光)……………19

20. 塑性加工における弾塑性体の変形解析 ; 中山 恭秀(生1 岡野翔太郎).....20
21. 生分解性複合材の力学的特性と分解性 ;
中山 恭秀、【総合教育科】伊藤 武志(生2 伊藤将吾).....21
22. 近接する空孔を含む材料の弾塑性変形解析 ; 中山 恭秀(生2 森光一樹).....22
23. 銀と脆性材料のラッピングについての研究 ; 藤本 隆士(生2 大内田一生).....23
24. 接触による粗さ面の変化に関する研究 ; 藤本 隆士(生1 新田悠二).....24
25. 弾性体の微小変位特性に関する研究 ; 藤本 隆士(生2 藤原裕太).....25

【情報工学科】

26. 超高速フレーミングカメラのシャッター特性についての研究 ; 伊藤 芳浩.....26
27. 海洋照明用新光源点灯システムの研究 ; 岡本 太志.....27
28. 学習機能を有する第2世代ウェーブレットプロセッサの開発 ; 葛目 幸一.....28
29. デュアルリフティングウェーブレットの学習理論の構築と3次元入力デバイスの開発 ;
葛目 幸一.....29
30. ～ピエゾフィルムセンサによる呼気検出とデバイスへの応用～ ;
葛目 幸一(生1 石渡寛明).....30
31. 高速度カメラ1000分の1の世界 ; 田房 友典.....31
32. FOMA携帯電話を用いた弓削丸との相互通信 ; 田房 友典(生1 服部和典).....32
33. セメント製造プラントの自動制御に関する研究 ; 徳田 誠.....33
34. join NASS～繋がりあうネットワーク監視システム～ ;
長尾 和彦(生2 桑田充邦).....34

【総合教育科】

35. 微生物を用いた廃棄物からの水素生産に関する研究 ; 伊藤 武志.....35
36. スポーツにおける技術指導の効率化
-科学的アプローチによる身体感覚の視覚化を応用して- ; 水崎 一良.....36
37. 初年次学生の国際的視野を育むアクティブラーニング -アメリカ人高校生との交流プログラム実践報告- ; 望月 肇、坂内 宏行、野口 隆、上江 憲治.....37

【電子機械工学科追加】

38. 発泡スチロールの切削; 大石健司(生1 村上豪一).....38

「四国6高専産学官交流 in しまなみ」に参加して

専攻科 海上輸送システム工学専攻 中橋 勇貴

「四国6高専産学官交流 in しまなみ」に参加して、他高専の特色ある研究内容を見ることができとても勉強になった。今回、パネル展示に参加するために、数ヶ月間かけてやってきた実験をまとめ、いろいろな参考資料等から自分の研究内容をパネル1枚にまとめるのがとても大変だった。特に専門用語をなるべく使わずに、多くの人に少しでも自分のやっている研究内容がわかりやすく理解しやすくするために、いろいろと試行錯誤しながら作り上げた。ポスターだけの展示だと、見た方が疑問に思われた点などに答えることができないので、今回会場で説明を行うことにした。また、他高専のパネル展示を見ることや他高専の発表等を聞いて、どんな事を研究しているのかなど非常に興味があった。

実際に、パネル展示で説明してみても、自分のやっている研究を説明することが、これほど難しいとは思っていなかった。パネル展示が始まる直前に、会場である今治地域地場産業振興センターの方に説明したときは、緊張せずにできたのだが、本番多くの方が見ている緊張から、言葉がうまく出てこなかった。この体験からより上手に説明できるようにしたいと思った。

今回非常に残念だったのは、多くのパネル展示があったが説明する人がいないので、それぞれの研究について詳しい説明を聞きたかった。また、学生の参加がなかったので、学生同士の意見交換などもできなかった。四国6高専が集まる機会もすくないので、このようなときに交流できたらいいのではないのかと感じた。

資料3

平成19年度TA実施報告書

海上輸送システム工学専攻 学籍番号 065003 氏名

科目名	クラス	実施日時	実施時間	実施内容の概要	科目担当教員 確認印
練習船補 修航海		H19.3.10 ~3/12	3day	補修学生に対して指導を行った。	高岡
体験航海		H19.4.28 ~4.29	2day	体験航海での運航の補佐を行った。	高岡
体験航海 (1日船長)		H19.7.28 ~7.29	2day	体験航海での運航の補佐を行った。	高岡
オープン カレッジ		H19.8.2	3h	シミュレータでの講座の補佐を行っ た。	高岡
体験航海		H19.8.5 9:00-12:00	3h	体験航海での運航の補佐を行った。	高岡

海上輸送システム工学専攻 学籍番号 065001 氏名

科目名	クラス	実施日時	実施時間	実施内容の概要	科目担当教員 確認印
体験航海		H19.4.28 ~4.29	2day	体験航海での運航補佐, 船内案内	村上
体験航海 (1日船長)		H19.7.28 ~7.29	2day	体験航海での運航補佐, 船内案内	村上
オープン カレッジ		H19.8.2	3h	内燃実験室の補佐	村上
体験航海		H19.8.5 9:00-12:00	3h	体験航海での運航補佐 船内案内	村上

海上システム工学専攻 学籍番号 055002 氏名

科目名	クラス	実施日時	実施時間	実施内容の概要	科目担当教員 確認印
航海実習	S2B	H19.7.4-5	16H	航海実習手伝い。	村上
救命講習	S1.S2	H19.7.9	6H	救命講習手伝い。	村上

実施時間合計 2回

時間 22時間

注意: TA終了後本用紙に必要事項を記入の上、専攻科専攻主任に提出して下さい。

入学試験問題の作成ミス防止対策

イ. 防止対策の主旨

入試は最も重要な学校行事と位置づけ、入試委員会による検討、入試担当者説明会の開催、実施要領の作成と試験官への周知等を含め慎重に実施してきた。その結果、重大なミスもなく今日に至っている。しかし、学力選抜予備問題等は使用される機会が少なく、作成に慎重さを欠く一面が認められる。そこで、ここでの防止対策は、独自に作成した試験問題の出題ミス防止に視点を置いて検討したい。

ロ. 具体的な防止策

①入試担当者説明会でのミス防止の徹底

②地方検査員の増加

本年度より、地方検査員一名(事務系職員)を増員する。

③チェック体制の強化

- ・試験問題作成者と教務主事関係者との役割分担の明確化

問題内容：試験問題作成者 問題体裁：教務主事関係者

- ・チェックリストの作成

別紙の通り

(問題作成者用)

入試問題作成チェックリスト

科目名	問題作成担当者	チェック担当者

受検者の立場に立って実際に解答しましたか？

正解を導くことはできますか？

(アンダーラインや指定した語句の欠落がない等)

複数の正解はありませんか？

中学校学習指導要領に沿った問題ですか？

解答用紙と問題用紙の問題番号は合っていますか？

年度（平成21年度）に間違いはないですか？

ページ番号に間違いはないですか？

(印刷・袋詰め担当者用)

入試問題チェックリスト

科目名	教務主事	チェック担当者	チェック担当者

欠落ページはありませんか？

印刷にかすれはありませんか？

(入試本部担当者用)

入試問題チェックリスト

科目名	担当者

受検者の立場に立って実際に解答しましたか？

平成18年度 保健室利用状況

(月別利用状況)

内 容／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
内 科 的	頭 痛	21	18	20	20	0	8	11	18	20	5	8	9	158
	感冒症状	24	30	40	2	0	12	40	44	80	40	45	44	401
	下 腹 痛	10	16	7	7	1	12	14	9	66	10	12	5	169
	胃部症状	5	6	15	11	1	14	16	9	15	6	2	4	104
	皮膚症状	0	1	1	1	0	1	0	0	3	0	0	1	8
	眼 症 状	3	1	3	3	1	4	3	1	2	0	0	1	22
	体調不良	10	16	11	10	0	3	4	9	4	10	2	1	80
外 科 的	怪 我	15	12	11	22	6	27	15	15	21	11	6	5	166
	打撲・筋肉 痛・捻挫等	20	12	22	18	3	5	19	20	22	8	8	5	162
そ の 他	性 関 連	1	4	2	4	1	3	5	2	1	2	1	0	26
	精 神 面	22	25	14	16	1	30	6	12	10	8	5	8	157
合 計		131	141	146	114	14	119	133	139	244	100	89	83	1,453

(学年別性別利用状況)

内容／学年・性別		1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		専攻科生		合 計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
内 科 的	頭 痛	23	6	32	8	23	22	12	9	13	7	3	0	158
	感冒症状	44	20	53	37	45	38	60	50	37	14	3	0	401
	下 腹 痛	31	7	25	22	32	3	34	3	10	2	0	0	169
	胃部症状	3	7	3	20	5	10	7	10	20	19	0	0	104
	皮膚症状	0	1	0	3	1	3	0	0	0	0	0	0	8
	眼 症 状	3	1	3	1	3	4	3	2	2	0	0	0	22
	体調不良	11	9	5	5	22	4	4	3	8	7	2	0	80
外 科 的	怪 我	33	6	40	2	41	2	21	3	13	2	3	0	166
	打撲・筋肉 痛・捻挫等	24	4	25	9	31	5	27	3	27	4	3	0	162
そ の 他	性 関 連	5	4	0	4	0	5	0	4	0	3	0	1	26
	精 神 面	19	20	13	40	9	27	6	11	8	4	0	0	157
合 計		173	79	167	143	189	101	162	89	125	55	14	1	1,453

平成18年度 健康相談窓口利用状況

(月別利用状況)

内 容／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
内科的症状	3	18	6	3	0	3	5	5	6	5	5	3	62
外科的症状	2	2	2	6	0	1	2	1	3	2	1	2	24
眼 症 状	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4
性 関 連	1	0	1	1	0	2	0	0	1	2	1	2	11
精 神 面	4	2	3	2	0	2	2	3	2	4	2	3	29
そ の 他	1	0	0	2	0	1	3	2	1	1	2	0	13
合 計	13	23	12	14	0	9	12	12	13	14	11	10	143

(学年別利用状況)

内容／学年・性別	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		専攻科生		合 計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
内科的症状	10	8	10	9	6	5	5	3	2	2	2	0	62
外科的症状	6	2	5	1	3	1	2	1	2	0	1	0	24
眼 症 状	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
性 関 連	0	3	0	2	0	3	0	1	0	1	0	1	11
精 神 面	6	6	2	5	2	5	1	1	0	1	0	0	29
そ の 他	2	2	1	3	1	1	0	1	1	1	0	0	13
合 計	25	22	19	21	12	15	8	7	5	5	3	1	143

平成19年度 保健室利用状況

(月別利用状況)

内 容／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
内 科 的	頭 痛	24	22	20	20	0	17	11	18	20	18	22	23	215
	感冒症状	21	28	44	3	0	12	33	44	76	44	44	48	397
	下 腹 痛	12	17	9	5	1	18	14	9	30	13	19	18	165
	胃部症状	6	5	6	11	1	14	16	9	16	6	7	4	101
	皮膚症状	0	1	1	1	0	3	0	0	3	0	0	1	10
	眼 症 状	4	2	3	3	1	4	3	1	2	0	0	1	24
	体調不良	11	17	20	17	0	17	17	9	19	19	21	17	184
外 科 的	怪 我	32	28	33	33	8	39	28	28	28	26	28	29	340
	打撲・筋肉痛・捻挫等	22	20	20	18	3	17	19	20	22	19	17	10	207
そ の 他	性 関 連	1	4	2	4	1	3	5	2	1	2	1	0	26
	精 神 面	23	25	17	19	1	30	22	19	17	19	21	18	231
合 計		156	169	175	134	16	174	168	159	234	166	180	169	1,900

(学年別性別利用状況)

内容／学年・性別		1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		専攻科生		合 計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
内 科 的	頭 痛	23	10	35	22	23	22	22	17	20	18	3	0	215
	感冒症状	44	16	53	37	45	38	60	50	37	14	3	0	397
	下 腹 痛	30	7	25	18	32	3	34	3	10	2	1	0	165
	胃部症状	3	7	3	17	5	10	7	10	20	19	0	0	101
	皮膚症状	0	1	0	3	1	3	0	0	2	0	0	0	10
	眼 症 状	3	3	3	1	3	4	3	2	2	0	0	0	24
	体調不良	23	12	32	22	24	21	4	15	8	21	2	0	184
外 科 的	怪 我	66	27	52	22	49	30	37	4	27	18	8	0	340
	打撲・筋肉痛・捻挫等	34	12	34	18	33	13	22	4	20	12	5	0	207
そ の 他	性 関 連	5	4	0	4	0	5	0	4	0	3	0	1	26
	精 神 面	29	33	25	40	14	35	6	19	8	22	0	0	231
合 計		237	122	227	182	206	162	173	111	134	111	22	1	1,900

平成19年度 健康相談窓口利用状況

(月別利用状況)

内 容／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
内科的症狀	9	11	7	3	0	3	9	5	4	5	5	2	63
外科的症狀	2	2	2	3	0	1	2	1	3	2	1	0	19
眼 症 状	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
性 関 連	1	0	1	1	0	2	1	0	2	1	1	0	10
精 神 面	5	6	7	2	0	2	5	3	2	4	3	0	39
そ の 他	1	0	1	0	0	1	2	3	1	2	1	0	12
合 計	19	20	18	9	0	9	19	13	12	14	11	2	146

(学年別利用状況)

内容／学年・性別	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		専攻科生		合 計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
内科的症狀	11	8	11	10	4	4	4	4	2	3	2	0	63
外科的症狀	2	2	5	1	3	1	2	1	1	1	0	0	19
眼 症 状	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
性 関 連	0	1	0	2	0	3	1	1	1	1	0	0	10
精 神 面	8	6	4	6	3	5	1	3	0	3	0	0	39
そ の 他	2	2	1	3	1	1	0	1	0	1	0	0	12
合 計	24	20	21	23	11	14	8	10	4	9	2	0	146

平成20年度 保健室利用状況

(月別利用状況)

内 容／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
内科的	頭 痛	5	9	28	24	1	22	20	22	21	18	22		192
	感冒症状	5	6	44	42	3	46	33	44	76	44	44		387
	下 腹 痛	4	4	22	15	2	18	14	19	30	19	19		166
	胃部症状	1	2	6	9	0	10	16	9	6	6	7		72
	皮膚症状	0	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0		6
	眼 症 状	1	0	3	1	0	4	2	1	2	0	0		14
	体調不良	2	2	20	30	0	17	22	20	19	26	21		179
	性 関 連	0	0	2	4	0	3	4	2	1	2	1		19
外科的	怪 我	5	10	40	58	3	52	44	39	33	32	28		344
	打撲・筋肉痛・捻挫等	15	14	42	48	1	42	38	37	34	29	28		328
そ の 他		3	0	17	19	0	30	22	19	17	19	21		167
合 計		41	47	224	250	10	247	215	212	242	195	191	0	1,874

(学年別性別利用状況)

内 容／学年・性別		1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		専攻科生		合 計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
内科的	頭 痛	18	9	35	18	22	17	19	13	20	18	3	0	192
	感冒症状	50	12	55	30	44	34	54	49	44	13	2	0	387
	下 腹 痛	25	7	34	15	31	3	28	2	18	2	1	0	166
	胃部症状	8	7	3	5	5	10	6	7	4	17	0	0	72
	皮膚症状	0	1	0	2	1	2	0	0	0	0	0	0	6
	眼 症 状	2	1	3	0	2	1	3	1	1	1	0	0	14
	体調不良	23	10	26	20	23	20	3	13	19	20	2	0	179
	性 関 連	2	3	0	4	0	3	1	4	1	1	0	0	19
外科的	怪我	61	27	52	20	51	28	42	3	35	18	7	0	344
	打撲・筋肉痛・捻挫等	63	12	58	17	65	11	50	4	32	12	4	0	328
そ の 他		26	25	25	28	10	14	3	10	6	20	0	0	167
合 計		260	105	256	141	232	126	190	93	160	103	19	0	1,874

平成20年度 健康相談窓口利用状況

(月別利用状況)

内 容／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
内科的症狀	0	0	13	13	0	10	11	6	6	6	7		72
外科的症狀	0	0	8	9	0	2	3	1	3	2	1		29
眼 症 状	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		1
そ の 他	2	0	9	10	0	8	7	7	4	8	4		59
合 計	2	0	30	32	0	20	21	15	13	16	12	0	161

(学年別利用状況)

内容／学年・性別	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		専攻科生		合 計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
内科的症狀	14	11	11	8	4	6	5	3	3	4	2	0	71
外科的症狀	6	2	7	1	6	1	3	1	2	1	0	0	30
眼 症 状	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
そ の 他	11	13	7	10	4	5	1	4	0	4	0	0	59
合 計	31	26	25	20	14	12	9	8	5	9	2	0	161

図書館利用状況

(平成19年度年間)

(1)入館者数	合計		(2)館外個人貸出者数	合計		(3)館外個人貸出冊数	合計	
	事項			事項			事項	
学生(人)		15,551	学生(人)		872	学生(冊)		1,307
教職員(人)		2,266	教職員(人)		156	教職員(冊)		235
学外者(人)		1,472	学外者(人)		249	学外者(冊)		664
計(人)		94	計(人)		29	計(冊)		40
開館日数(日)		77	開館日数(日)		7	開館日数(日)		43
一日平均(人)		57	一日平均(人)		5	一日平均(人)		23
		17,100			1,128			2,014
		2,417			190			298
		231						
		202						
		74.0		*	網掛け			内は時間外利用で外数
		12.0						

(平成20年4月～平成21年1月末)

(1)入館者数	合計		(2)館外個人貸出者数	合計		(3)館外個人貸出冊数	合計	
	事項			事項			事項	
学生(人)		10,929	学生(人)		788	学生(冊)		1,162
教職員(人)		689	教職員(人)		25	教職員(冊)		43
学外者(人)		769	学外者(人)		211	学外者(冊)		433
計(人)		54	計(人)		36	計(冊)		74
開館日数(日)		118	開館日数(日)		27	開館日数(日)		64
一日平均(人)		53	一日平均(人)		6	一日平均(人)		37
		11,816			1,026			1,659
		796			67			154
		201						
		62						
		58.8		*	網掛け			内は時間外利用で外数
		12.8						

図書館利用状況(平成19年度月毎)

(1) 入館者数

月事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生(人)	1,190	1,678	2,257	779	74	1,387	1,753	1,649	1,255	1,106	1,673	750	15,551
教職員(人)	129	281	432	103	-	258	282	389	239	153	-	-	2,266
学外者(人)	116	166	141	91	62	119	160	146	125	135	129	82	1,472
	7	19	11	8	-	9	10	15	11	4	-	-	94
	7	4	11	2	17	0	3	3	10	2	9	9	77
	2	2	7	6	-	7	10	16	4	3	-	-	57
計(人)	1,313	1,848	2,409	872	153	1,506	1,916	1,798	1,390	1,243	1,811	841	17,100
開館日数(日)	138	302	450	117	-	274	302	420	254	160	-	-	2,417
	15	21	21	16	20	18	22	21	19	18	20	20	231
	17	25	30	11	-	25	30	28	20	16	-	-	202
1日平均(人)	87.5	88.0	114.7	54.5	7.7	83.7	87.1	85.6	73.2	69.1	90.6	42.1	74.0
	8.1	12.1	15.0	10.6	-	11.0	10.1	15.0	12.7	10.0	-	-	12.0

(2) 館外個人貸出者数

月事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生(人)	90	112	105	27	4	72	127	104	70	70	59	32	872
教職員(人)	19	30	34	9	-	20	18	14	9	3	-	-	156
学外者(人)	29	29	22	37	12	16	14	26	20	14	17	13	249
	3	6	4	2	-	2	2	7	2	1	-	-	29
	0	2	2	1	0	0	0	0	0	0	1	1	7
	0	0	1	1	-	2	0	1	0	0	-	-	5
計(人)	119	143	129	65	16	88	141	130	90	84	77	46	1,128
	22	36	39	12	-	24	20	22	11	4	-	-	190

(2) 館外個人貸出冊数

月事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生(冊)	140	173	150	37	8	95	195	154	114	102	81	58	1,307
教職員(冊)	26	46	52	11	-	32	29	21	14	4	0	0	235
学外者(冊)	96	72	63	107	29	27	57	81	47	30	36	19	664
	4	9	4	6	-	2	2	10	2	1	0	0	40
	0	10	10	5	0	0	0	0	0	0	4	14	43
	0	0	5	3	-	10	0	5	0	0	0	0	23
計(冊)	236	255	223	149	37	122	252	235	161	132	121	91	2,014
	30	55	61	20	-	44	31	36	16	5	0	0	298

* 網掛け内は時間外利用

図書館利用状況(平成20年度月毎)

(1) 入館者数

月事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生(人)	957	1,551	2,110	933	100	1,526	1,208	1,092	1,163	289			10,929
教職員(人)	36	71	86	40	-	122	59	229	43	3			689
学外者(人)	132	36	48	58	45	97	98	75	95	85			769
	6	7	11	2	-	3	18	4	1	2			54
	3	5	5	8	69	4	5	7	10	2			118
	0	8	4	6	-	0	6	26	1	2			53
計(人)	1,092	1,592	2,163	999	214	1,627	1,311	1,174	1,268	376	0	0	11,816
開館日数(日)	42	86	101	48	-	125	83	259	45	7	-	-	796
1日平均(人)	21	20	21	22	18	20	22	18	20	19			201
	6	6	9	4	-	8	8	10	4	7			62
	52.0	79.6	103.0	45.4	11.9	81.4	59.6	65.2	63.4	19.8			58.8
	7.0	14.3	11.2	12.0	-	15.6	10.4	25.9	11.3	1.0			12.8

(2) 館外個人貸出者数

月事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生(人)	86	123	89	87	10	78	109	91	61	54			788
教職員(人)	4	1	4	2	-	5	2	6	1	0			25
学外者(人)	22	22	29	25	22	30	20	11	19	11			211
	3	5	8	0	-	2	4	9	3	2			36
	2	4	3	5	1	1	1	9	1	0			27
	0	1	2	1	-	0	0	1	0	1			6
計(人)	110	149	121	117	33	109	130	111	81	65	0	0	1,026
	7	7	14	3	-	7	6	16	4	3	-	-	67

(2) 館外個人貸出冊数

月事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生(冊)	128	180	118	123	18	103	160	142	108	82			1,162
教職員(冊)	9	2	9	2	-	9	4	6	2	0			43
学外者(冊)	44	40	51	50	55	66	40	21	44	22			433
	8	9	15	0	-	3	8	16	11	4			74
	9	4	6	14	2	1	3	20	5	0			64
	0	12	10	5	-	0	0	5	0	5			37
計(冊)	181	224	175	187	75	170	203	183	157	104	0	0	1,659
	17	23	34	7	-	12	12	27	13	9	0	0	154

* 網掛け 内は時間外利用で外数

S T C W 条約 審査結果

NONCONFORMITY REPORT	
Page 1 of 1	
Name of the Institution: Yuge National College of Maritime Technology	
Description of Nonconformity: The scrapped documents were not distinguished.	
Degree of deviation:	<input type="checkbox"/> Major <input checked="" type="checkbox"/> Minor
Does documentary evidence for corrective action require?	<input type="checkbox"/> Yes <input checked="" type="checkbox"/> No
Does on-site re-audit recommend?	<input type="checkbox"/> Yes <input checked="" type="checkbox"/> No
Proposed items for corrective action: The scrapped document is classified and managed appropriately.	
Plan for date of completion: October 23, 2008	
Lead auditor: <i>Fumio Hasegawa</i> Fumio Hasegawa	Auditee's representative: Toshikuni Ochiai
Date: October 20, 2008	
Corrective action conducted by institution: <i>The register of the scrapped documents has been established.</i>	
Auditee's representative: Toshikuni Ochiai	Date of completion: <i>October 22, 2008</i>
Confirmation - Reason	<input type="checkbox"/> Satisfactory <input type="checkbox"/> Not satisfactory
Proposed item:	
Lead auditor: Fumio Hasegawa	Date:
Nonconformity neutralize?	<input type="checkbox"/> Yes <input type="checkbox"/> No
Lead auditor: Fumio Hasegawa	Date:

「四国運輸局船員労働環境・海技資格課よりの指摘」

STCW条約項目ごとの評価例



Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism JAPAN

Checklist for Quality Standards System Audit Year 2008

(for educational facilities)

Manual reference number	Questions	Conformity	Nonconformity		Record of results
			Major	Minor	
4.1 General requirements	Please explain the process of educational management system.	○			Explanation was made by using the figures in the manual.
	What process is outsourced?	○			Sea training and part-time instructors
4.2.1 General	What is documented in the organization?	○			The following documents were confirmed <ul style="list-style-type: none"> • Educational policy • Educational objective • QSS manual • Original documents • The format • Record
4.2.2 Education manual	Please tell us the scope of the education management system.	○			It was applied to the Department of XX at XX.
4.2.3 Control of documents	Who is the acknowledger of the document described in the item "4.2.1 General Control of documents".	○			Confirmed through the list in the manual.

以下省略

平成20年度施設・設備工事

事業名 電子機械工学科棟等幹線改修その他工事

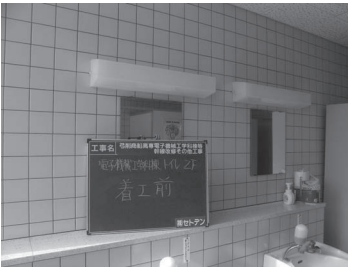
現場写真



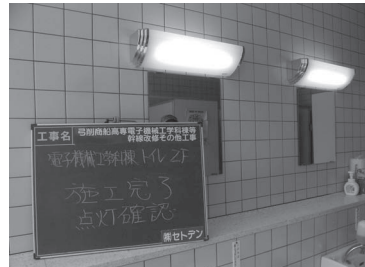
①着工前写真(廊下)



②完成写真(廊下)



③着工前写真(トイレ)



④完成写真(トイレ)



⑤着工前写真(電気室)



⑥完成写真(電気室)

事業名 情報処理教育センター防水改修工事

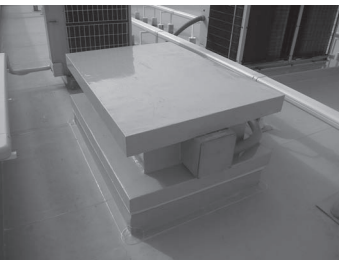
現場写真



①着工前写真(全景)



②完成写真(全景)



③完成写真(ハト小屋)



④完成写真(空調機廻り)

弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会名簿

委員長	校 長	落 合 敏 邦
委 員	教 務 主 事	友 田 進
〃	学 生 主 事	上 岡 範 雄
〃	寮 務 主 事	益 崎 真 治
〃	商 船 学 科 長	多 田 光 男
〃	電 子 機 械 工 学 科 長	大 石 健 司
〃	情 報 工 学 科 長	塚 本 秀 史
〃	総 合 教 育 科 長	山 尾 徳 雄
〃	専 攻 科 長	葛 目 幸 一
〃	図 書 館 長	田 原 正 信
〃	情報処理教育センター長	長 尾 和 彦
〃	地域共同研究推進センター長	勘久保 広 一
〃	商 船 学 科	中 哲 夫
〃	電 子 機 械 工 学 科	鶴 秀 登
〃	情 報 工 学 科	長 尾 和 彦 (再掲)
〃	総 合 教 育 科	濱 中 俊 一
〃	事 務 部 長	米 原 壽 男
幹 事	総 務 課 長	若 狭 忠 司
〃	学 生 課 長	阿 部 祐 一
	企 画 広 報 室 長	不 動 俊 樹

自己点検・評価報告書

平成21年3月

編 集 自己点検・評価委員会

発 行 独立行政法人国立高等専門学校機構 弓削商船高等専門学校

愛媛県越智郡上島町弓削下弓削 1000

TEL (0897) 77-4613
